

## ■教育実習生紹介

月曜日から9名の実習生が教育実習を行っています。現役の大学生でもありますので、皆さんにとっては大学というものをより身近に感じられる先輩方です。今回の通信では実習生の先生方から自己紹介を兼ねて自分たちの進路決定のことを簡単に書いてもらいました(スペースの都合で「〇〇大学の〇〇です。よろしくお願いします」的な1文は省略しました)。もっと詳しく知りたい方は遠慮なく実習生控室まで聞きにってください。

### ① A先生 [筑波大学人文文化学群人文学類4年] (担当教科: 日本史 担当HR: 2-3)

大学では史学(近現代史)を専攻しています。授業見学をさせていただく中で、現在の進路を決定するまでに沢山悩み、進路をなかなか定められないもどかしさを抱えながら授業を受けることもあったかと、懐かしい気持ちになりました。高校生のとき、進路選択で意識したことは、自分のやりたいこと、好きなことを学べるか、ということと、自分の意思で選ぶことです。自分のやりたいこと、好きなことができることはモチベーションにつながり、自分の意思で選ぶことは、行動が制限され、思うように大学で学べなくなるなど、思いがけない困難に当たった時に、そこで腐らずに踏ん張れる、道を開こうと前に進む原動力になります。力みすぎず、自分の身体を大切にしつつ、目標に向かって頑張ってください。

### ② B先生 [愛知県立大学日本文化学部歴史文化学科4年] (担当教科: 日本史 担当HR: 1-5)

1年生の頃から、漠然と歴史学を勉強できる大学に進みたいと考えていました。2年生で日本史に興味を持つてからは3年の科目選択を世界史から日本史へと方針転換をして、日本史に強い大学を探しました。愛知県立大学を知ったのは3年生になってからです。受験の決め手になったのはオープンキャンパスでした。キャンパス内の緑が豊かなところ、少人数教育が行なわれているところ、歴史学だけではなく地理学、法学、社会学の専門の先生がいるところを見て、この大学なら4年間過ごしやすいそうだな、自分のやりたい勉強ができそうだなと思いました。私は、やりたいことがはっきりしていたため、その軸に沿って志望先を選ぶ形になりました。まだ、どんなことを勉強したいか分からないという人は、自分が何に興味があるのか、どんな雰囲気の大学だと4年間楽しく過ごせそうかということを考えるとよいと思います。

### ③ C先生 [立教大学]コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科4年] (担当教科: 公共 担当HR: 2-4)

現在の進路は試験科目と受験日程と偏差値帯という極めて現実的な要因で決めました。受験の動機を見てお分かりかもしれませんが、私は残念ながら志望通りの進路を実現することはできませんでした。しかし、今はこの進路でよかったと満足しています。アドバイスできるとすれば第一志望以外の受験校もきちんと下調べを徹底することです。合格し入学を決めてから埼玉のキャンパスにも通うことになることを知りました。慌てて引っ越し先を探したのも今となっては良い思い出ですが、いざというとき困らないように反面教師にしてください(笑)。

### ④ D先生 [群馬大学共同教育学部社会専攻4年] (担当教科: 公共 担当HR: 2-1)

私は、高校時代から教員になることを志望していたため、現在の進路に進みました。「自分が興味を持っているもの」や「挑戦してみたいこと」を基にして進路を考えるとよいと思います。「好きこそものの上手なれ」というように、自分のやる気があれば今の勉強やその後の勉強も頑張れます。そのため、今の自分に見切りをつけることはせず、自分の気持ちを大切に目標に向かっていくことが進路を実現させるためには必要だと思います。前女生のみなさんのことを応援しています。

⑤ E先生 [東京農工大学工学部生命工学科4年] (担当教科: 生物 担当HR: 1-2)

私がOGの一人として伝えるべきと今感じることは1つです。人生何があるかはわかりません。信じるべきは世間一般論や周囲の声ではなく、自らの直感と「やっていて楽しいか」です。私自身「やっていて楽しい」と感じる事を選択した結果、文系に進もうとしていましたが最後の選択で理系に進み、大学では生涯やることはないだろうと思っていたはずのマウスの解剖をしております。ぜひ自分の気持ちを第一に高校生活を存分に楽しんで下さい。

⑥ F先生 [群馬大学共同教育学部保健体育専攻4年] (担当教科: 保健体育 担当HR: 1-7)

本当は違う分野に進みたかったのですが、自他共にその分野は向いていないと判断し、自分が少し興味のある分野で、周りからも背中を押された教育学部に進むことを決めました。自分の学力だけで進路を決めるのではなく、やりたいと思えることや自分の内面的な面も含めながら、進路を決めると後に後悔しないと思います。

一途に希望進路に向けて突っ走ることとても素敵なことだと思いますが、高校生うちに様々な大学や職業を見たり、趣味や部活、ボランティアなどの経験をしてみると、進路の選択に幅が広がると思います。また、進路に関して不安になったり、迷ったりすることもあると思いますが、高校卒業後の進路が今後自分の生きる道に一生関係してくるということは全くないと思うので、気負わずやってみたいと思う気持ちと勢いに任せてしまってもよいと思います。ぜひ前女での黄金の1000日を大切に、たくさんの経験と思いを積んでいってください。

⑦ G先生 [神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科4年] (担当教科: 英語 担当HR: 1-1)

高校受験の段階では教師になるということは考えておらず、国際ボランティア職員として働きたいと思っていました。そこで大学は英語と国際関係のことが学べる大学を受験しました。また重視した点は、留学制度が充実しているか、ネイティブの英語を学ぶ機会があるかなどです。いくつか自分が大切にしたいポイントが定まっていると進路が絞りがやすいかもしれません。まだ決まっていない人は、学部以外に教職や資格を取れるコースが充実しているところだと自分の興味を見つけたり、方向転換したりできると思います。勉強に、部活に、青春に、とても忙しいと思いますが、前女生なら自分のしたいことを全力で追いかけられると思います。応援しています。

⑧ H先生 [青山学院大学文学部英米文学科4年] (担当教科: 英語 担当HR: 2-2)

英語の勉強が好きで、将来英語の先生になりたいと思っていたので、大学を選びはまず、英語を使用した学習がどれだけできるかを重視しました。また、外国と日本の文化やコミュニケーションについても学びたいと思っていたので、コミュニケーション系のコースがある学科を中心に志望校を絞っていきました。青山学院大学の英米文学科はこれらの条件を満たしており、さらに文学や教育学・言語学など幅広い分野から授業を選択できる事に魅力を感じたため、進学を希望しました。私が大学に入学した年にコロナが大流行し、1.2年生の授業はほぼオンラインで行われました。英語を話す授業でも、オンラインでは上手くコミュニケーションを取れない場面が多々あり、大きな悩みでしたが、そのような状況の中でも、どうにか試行錯誤しながら取り組んでいると、回を重ねる毎に英語を聞いて理解できるようになり、少しずつ自分の意見を言えるようにもなりました。この経験から私が皆さんにお伝えしたいことは、大切なのは「どの大学に進学するか」ではなく、選んだ進学先で「どう学んでいくか」であるということです。そして、大変な状況の中でもここまで学び続けてこられたのは、自分の好きな英語に触れられる環境だったからだだと思います。なので、自分が最も興味のあることや好きなことを学べる場所を探すのをお勧めします！

⑨ I先生 [成蹊大学文学部英語英米文学科4年] (担当教科: 英語 担当HR: 1-6)

私が進路を決める際に最も意識したことは、中高の英語の教員免許が取れるかどうかです。学校の先生になりたいと漠然と考えていましたが、将来様々な職種の友達がいた方が面白そうだなと思い、周りが皆教員志望ではない環境に身を置くべく文学部を選びました。前女での生活は忙しくて大変だと思いますが、友達と励まし合い、先生を信じてついていけば大丈夫です！前女を勉強の軸にして何事も楽しみながら頑張ってください！